特定非営利活動法人

3・11 甲状腺がん子ども基金

2017 年度活動報告

医師による 1 日電話相談

音楽×医学イベント
お寺 de コンサート

郡山ファミリーフェスタ 2017 に出展

福島県県民健康調査についてのアンケート結果を
伝える記者会見

3·11甲状腺がん子ども基金
3·11 Fund for Children with Thyroid Cancer

ごあいさつ

特定非営利活動法人３・１１甲状腺がん子ども基金は、2011 年の東京電力福島第一原子力発電所の事故以降に甲状腺がんを発症したお子さんとそのご家族を支援するために設立されました。今期はその第 2 期の活動となりました。

2016 年 12 月 1 日より開始しました療養費給付事業「手のひらサポート」は、皆さまの継続的なご支援のおかげで、第 2 期は、1 都 13 県の 43 名の方に療養費をお渡しすることができました。また、電話相談や症状に応じた追加給付の制度も新たに設けるなど、サポート内容の拡大も実現することができました。これも皆さまのご協力のおかげと、心よりお礼申し上げます。

福島県では原発事故当時 18 歳以下だった人に県民健康調査の甲状腺検査が行われています。2011 年から始まった第１巡目で甲状腺がんまたはその疑いと認められた人は 100 人を超し、第 3 巡目（2018 年 3 月）までには 200 人を超しました。昨夏、基金では、この県民健康調査の甲状腺検査について、事故当時福島県に在住しておられた受給者の方々67 世帯にアンケートをお願いいたしました。甲状腺がんと診断されたご本人そしてご家族がどう感じておられるか、貴重な声を届けていただきました。

2017 年度、当基金は、療養費給付事業とその後のフォローアップ活動、広報を含めた普及啓発活動、甲状腺がんと診断されたご本人やご家族のおかれている実状への理解を広め、深めていくための調査活動など、幅広い活動を心がけてきました。

また、福島県外で放射能の雲（プルーム）が拡散した地域では、いくつかの自治体や民間団体によって甲状腺検査が行われてはいますが、政府による包括的な支援は今も実現されていません。私たちは、国内外からの大きなご支援を得て一人でも多くの方を支えたいと、福島県外の方々への療養費の給付も継続しております。

新年度は、電話相談を担っていただいている日本女医会東京都支部連合会の渡邉弘美会長に、新しく理事に就任していただきました。これによりさらに受給者の方々へのフォローアップサポートの充実を図っていきたいと思っております。

事故から 7 年が過ぎ、子どもたちも成長し、それぞれの人生を歩んでいます。手のひらサポートを、より多くの甲状腺がんの子どもたちに届け、子どもたちのいのちとくらしを支えていきたいと思います。今後とも皆さまのご支援をいただけますよう、どうぞよろしくお願い申しあげます。

2018 年 8 月

特定非営利活動法人３・１１甲状腺がん子ども基金
代表理事　崎山比早子
医学博士、元東京電力福島原子力発電所事故調査委員会（国会事故調）委員

2017年度活動報告

実状に即した、あらたな支援を始めました！

東電福島原発事故以降甲状腺がんを発症した25歳以下の方に療養費を給付する「手のひらサポート」は、2017年4月1日から2018年3月31日まで、第2期の申請を受け付けました。第1期では、療養費は一律10万円、放射性ヨウ素によるアイソトープ(RI)治療の方に追加療養費10万円の給付を行ってきました。このなかで、再発や転移などにより再手術をうける方がいらっしゃることなど、さまざまな実状がわかってきたことから、第2期では、追加給付など新たなサポートを設定しました。また、受給者へのアンケートにより、要望のあった医療相談や交流を実施するなど、当事者への支援を広げ、深めてきました。審査委員には9月から医師が1名増え、より専門性の高い公正な審査を心がけています。

「手のひらサポート」第2期給付額は700万円　給付総額は1470万円に

対象者：申請時25歳以下で、福島原発事故以降に甲状腺がんの手術をされた方、またはがんと診断された方
給付額：一律10万円
アイソトープ治療の方：追加給付10万円
対象地域：原発事故当時、以下の地域にお住まいだった方：
岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県、長野県、山梨県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県

★第2期からの新たな取り組み

再手術への追加給付　10万円

再発や転移、あるいはがんの病状により再手術を受けた方に10万円の追加給付を行うこととしました。

予後が良いと言われている甲状腺がんですが、この取り組みによって、原発事故時に福島県内にいた基金の受給者の1割程度の方が、再発や転移による再手術となっていたことがわかりました。

＊なお再手術には、再発や転移によるもののほか、甲状腺がんの種類や治療上の判断により、2回に分けて手術が行われたものもあります。こうした場合も、2度の手術による心身や経済的負担へのサポートとして、追加給付の対象となります。

RI治療の方のセカンドオピニオン支援

アイソトープ（RI）治療を複数回受けている方でセカンドオピニオンを希望する方に、そのための交通費・宿泊費や診療費などを支援します。

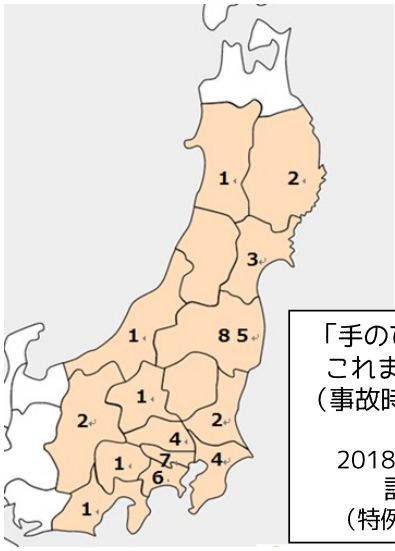
＊アイソトープ（RI）治療とは、甲状腺がんが肺など遠く離れた部位に転移した場合に、放射性ヨウ素のカプセルを飲んで、がん細胞を破壊する治療法です。甲状腺全摘後、転移の予防のためにおこなうこともあります。

特　例

年齢的に給付の対象者の範囲ではないものの、甲状腺がん以外にも重篤な病を抱えている方、障害がある方、経済的にひっ迫している方など、特段の事情のある方からのご相談もあり、個別例について審査委員会で審査し決定する「特例」の制度も設けました。

第2期の給付は次のとおりで、給付額の合計は700万円となりました。

・新規申請39人（福島県27人、県外12人）
・再手術13人（再発によるもの福島県8人）
・RI治療5人（福島県1人、県外4人）
・セカンドオピニオン支援1人（福島県）
・特例4人（福島県2人、県外2人）



「手のひらサポート」
これまでの給付人数
（事故時の居住地域別）

2018 年３月末まで
計 120 人
（特例４人を除く）

第２期の新たな取り組みで、福島県の受給者の**約１割の方が再発**により再手術されていたことがわかりました。今後も実状に応じた支援を、柔軟に取り組んでいきたいと思います。**これまでの給付額は、総額で 1470 万円になりました。あらためて、みなさまのご支援に感謝申し上げます。**

原発事故 甲状腺がんの子ども 約1割の8人
再発し再手術

2018 年３月１日

再発に関する記者会見発表を伝えるＮＨＫニュース

寄付者の方へ、仲間たちへ 受給者の方々からの 声

今回は３・１１甲状腺がん子ども基金のおかげで、治療費の負担が軽減されました。
私はまだ学生なので決まった時間のアルバイトしかできず、経済面での心配が一番大きかったのですが、このようなサポートのおかげで少し余裕がもてました。本当にありがとうございました。（20 代女性）

給付金ありがとうございます。 私と同じように、若い年齢でこの病気になってしまった方々。診断された時は目の前が真っ暗になって、ショックでたまらないと思います。その不安や悲しさも、なかなか表向きには出せずに、自分の中で閉じ込めてしまったりもしちゃうかもしれないです。だから余計に不安が大きくなると思います。
大丈夫です。絶対に支えてくれる人がいます。そして、現に、私は今、普通という名の素晴らしい生活をしています。笑顔が一番のポイントです！ でも辛い時や苦しい時に、無理して笑顔でいるのはもっと苦しいから、そういう時は、周りに頼ってください。一緒に頑張っていきましょう。（10 代女性）

再発・転移が決まってから手術までの５か月間、生きた心地がしないくらい、深い闇に落ちたような、お先真っ暗な日々でした。まだ２１歳の私には受け止めきれなくて、辛くて辛くて、しかし乗り越えなければいけない壁だったので、必死に頑張りました。
「手術をしたら終わり」ではなく、その後のこれからが、また再発を心配しながらこの先一生を生きていきます。そして一生ホルモン剤を飲み続けます。それがどんなに大変なことか、同じ気持ちが分かるのは同じ病気の方々だけですが、こうして私たちのために動いてくれる人を本当にありがたいと心から思っています。本当にありがとうございました。（20 代女性）

自分は１６歳で手術を受けましたが、手術そのものではなく、術後の生活がつらかったです。首を切ったわけですから、当然ものを飲み込むときに痛むし、傷をかばおうとして姿勢が不自然になり、首や肩がこってしまいました。しかし、早期発見による手術だったので、転移もなく、無事に退院できたので安心しています。早期発見できたことに関しては、今回の「事故」に少しながらありがたさを自分自身は感じています。
手のひらサポートの皆様、この度はご支援くださり、ありがとうございました。
（10 代男性）

フォローアップと相談活動

公益社団法人日本女医会の東京都支部連合会と神奈川県支部会のご協力を得て医師による電話相談をスタート!!

受給者への電話相談を開始

2017 年度は、日本女医会の東京都支部連合会と神奈川県支部会のご協力を得て、受給者へのアフターケアとして、電話相談を開始しました。

手術後、体調面や精神面での不安などを抱えていても、病院での定期的な受診時に主治医にはなかなか話せないという声があり、またアンケートでも医療に関する情報がほしいと希望する声があったことから、予約制で一人につき 30 分程度の電話相談をおこなってきました。このような取り組みは大変ありがたいとの声をいただいています。

広く一般に向けた一日電話相談を実施

甲状腺検診や甲状腺疾患や、健康全般についての疑問質問に対応する「一日電話相談」を、9 月 24 日に開催しました。

テレビや新聞の報道を受けて、避難されている方からも問い合わせがあり、数日後まで相談の電話が入り反響が大きかったことから、2018 年 3 月 3 日、第二弾の「一日電話相談」を開催しました。

原発事故から 7 年がたっても、福島県外で甲状腺超音波検査をどこで受けられるかなどの高い関心が寄せられ、県外の方からの申請や支援のお申し出につながりました。

日本女医会よりご寄付も

また 8 月には、東京都支部連合会の母体でもある（公社）日本女医会から 150 万円のご寄付が寄せられました。子どもたちへの心強いご支援に励まされています。

医師による 1 日電話相談　2018 年 3 月 3 日

✽✽　当事者同士のつながりをサポート：交流会を実施　✽✽

基金では、給付後の情報提供として、「手のひらレター」を受給者に送付しています。また、当事者やご家族同士のつながりをサポートする目的で、医師のお話や音楽家の方のご協力も得て、当事者の交流会を企画しました。2017 年 8 月には、福島県郡山市において『てのひらカフェ』として、2018 年 2 月には当基金の事務所所在地である東京都新宿区において『てのひら食堂』として交流会を開催しました。

てのひら食堂ミニコンサート

特に 2 回目の交流会は、福島県外の受給者が 30 名いらっしゃること、また福島県内の受給者も進学や就職で関東に出てきている方もあることなどから、東京都内での開催としました。

原発事故後から 7 年がすぎ、子どもたちには新たな環境での悩みなども出てきます。若い人の甲状腺がんは少ないため、同年代での交流の機会がもてたことを喜んでいただけました。

当事者にしかわからない思いなども共有できる繋がりを持てるよう、今後も支援していきます。

現状を知り、深める調査活動

甲状腺がんを発症した方の貴重な声
福島の甲状腺検査に関するアンケート実施

8月、NHK福島放送局と共同で、当基金が療養費を給付した方の中で、原発事故当時に福島県にいた67世帯に、当事者が置かれている状況や甲状腺検査について感じていること、訴えたいことなどを聴きとる目的で、「あなたの声をきかせてください－甲状腺検査に関するアンケート」をお願いしました。

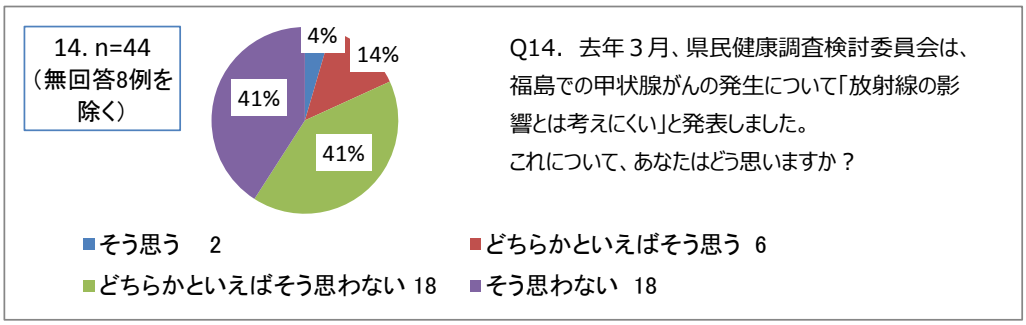
アンケートは、8月7日から22日までの期間で実施し、67世帯のうち、78%にあたる52世帯から回答をいただきました。

結果については、基金が独自に分析をし、記者会見で報告し、メディアにも多数とりあげられました。まとめについては、基金のホームページにも掲載しています(HPのニュース一覧、2017年12月22日より検索してください)。

「放射線の影響とは考えにくい」という福島県県民健康調査検討委員会の見解については、8割を超す人が反対の意見（そう思わない、どちらかといえばそう思わない）を示しました（下図参照）。

甲状腺検査維持・拡大を望む声が9割超

また、福島県の甲状腺検査が縮小されるのでは、というような動きがあるなかで、縮小を望む声はゼロで、当事者や家族の9割以上が検査の継続ないし拡充を望んでいるという結果でした。



Q16.「過剰診断」という検討委員会の見解についてどう思いますか？　という質問では、

◇**「手遅れになるよりは早期発見のほうがいいと思う」**（本人）

◇**「全都道府県で同じ人数の甲状腺検査をして、比較してみてほしい」**（母親）

など、検査が早期発見に結びついていることを肯定的に受け止めるご意見や、「過剰診断」というのであれば、科学的に納得できる比較可能なデータを出してほしいというご意見のほか、

◇**「病気というのは、病気になった本人や家族など、身近な人しか痛みがわからないと、この病気になって、改めて強く感じました。死に結びつかないからいいでしょう？　そんな言葉を自分の大切な人に言えないと私は思います。他人だから過剰診断と言える結果論であり、遺憾です」**（本人）

という切実なご意見も出されています。

「風化させないでください」

なお、アンケート内容や崎山代表理事へのインタビューがNHKBS1スペシャル『原発事故7年目　揺れる甲状腺検査　前編　がんはなぜ多く見つかっているのか／後編　“過剰診断”深まる混迷』で取り上げられました。

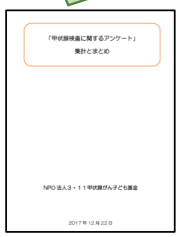
「原発事故、そして、私たちの病気も現在進行中です。どうか風化させないでください」（本人）

「甲状腺がんになった人がいるんだともう少しみんなに知ってほしいです」（本人）

などの、アンケートに寄せられた当事者の声が、番組の最後で紹介されました。

甲状腺検査に関するアンケート結果を伝える記者会見　2017 年 12 月 6 日

アンケートのまとめは、基金の Web サイトに掲載しています。
(ニュース一覧 2017 年 12 月 22 日)



12 月 7 日朝日新聞

12 月 7 日河北新報

【アンケート結果を伝える記事】

広報・普及啓発活動

**メディアでの紹介に力をいれながら、
自治体や教育機関・医療機関にも独自の広報を展開**

多くの方に基金の活動を知ってもらい、甲状腺がんの方の支援につなげていくために、第 2 期もメディアでの紹介に力を入れ、多くの報道で取り上げられました（10 ページをご参照ください）。

PR カードの設置にご協力いただきました！

独自の広報として、PR カード設置や、地域密着の広報にも力を入れました。

大学・専門学校	自治体	薬 局
福島大学、郡山女子大学、会津大学、福島医療専門学校の学生課の窓口や、カフェテラスなどに設置していただきました。	福島市、郡山市、いわき市の 3 つの市の危機管理課や、子ども支援センターなど関連の窓口にも設置していただきました。	クオール薬局は大手調剤薬局のひとつで、調剤薬局としては全国第 2 位の店舗数をほこっています。そのクオール薬局に交渉し、茨城県内にある 31 の店舗に基金の PR カードを設置していただきました。

そのほか、福島県内外のいくつかの病院や、甲状腺検査の支援団体などでも、PR カードを設置していただいています。ご協力、ありがとうございます!!

福島大学・うつくしま福島未来支援センターに
写真は 2018 年 5 月

手のひらサポート
PR カード

郡山市役所窓口に

地域密着の広報を心がけました

- 記者会見による情報発信のほか、ローカルメディアでの発信を心掛けました。 2017 年 8 月には、郡山市を中心としたフリーペーパー『**ザ・ウィークリー**』の 1 面に取材記事を、また、2018 年 1 月 25 日発売の『**シティ情報ふくしま**』の成人式特集に広告を掲載しました。広告を見た方からの申請が来ています！

- 11 月 5 日、郡山市社会福祉協議会が主催する健康福祉イベント「ファミリーフェスタ 2017」に参加しました。基金の広告も入った開催案内チラシ 6 万部は市内の保育所・幼稚園･小学校および中学校の全児童生徒に配布されるとともに、高校・専門学校・大学および公共施設などに配布されました。

甲状腺について知ってもらい、基金の活動を知ってもらう

「郡山ファミリーフェスタ 2017」に出展

郡山市の社会福祉協議会が健康福祉イベントとして、毎年「ファミリーフェスタ」を開催しています。2017 年の 11 月 5 日には郡山市のビッグパレットふくしまで「ファミリーフェスタ 2017」が開かれ、当基金もはじめて出展しました。『元気のもと研究所』と題して、甲状腺のはたらきについてはもちろん、健康についての豆知識など、クイズ形式で楽しみながら考える参加型の企画を実施しました。呼びかけ人の千葉親子さんが押し花でのしおり作りのコーナーの講師としてご協力くださいました。

子どもからご年配までが基金のブースに立ち寄ってクイズに挑戦。クイズの答合せには列ができました。参加賞のメダルチョコは、子どもたちに大好評でした。

大人も楽しめる企画となり、当日のクイズ参加者は 800 人にのぼり、来場者アンケートによる「印象深かったブース」ベスト 10 に入りました。

福島県メディカルソーシャルワーカー協会のみなさまとのご縁ができました

また、このフェスタに参加されていた福島県メディカルソーシャルワーカー協会の方とつながり、２月の理事会で基金の活動を紹介させていただくことができました。医療機関で患者さんやご家族のさまざまな相談に携わる方々に「手のひらサポート」を知っていただけたことを心強く思っています。

元気のもと研究所所長

クイズの一例

親子でクイズに挑戦

医療×音楽のイベントを開催しました（東京、富山）

3・11 から 7 年たった現在、基金の活動を知ってもらうとともに、甲状腺がんや甲状腺のはたらきそのものも知ってもらいたいということから、プロの音楽家にご協力いただき、リラックスできる雰囲気の中、医師による、わかりやすいお話を組み込んだイベントを企画いたしました。

お寺 de コンサート（2018 年 2 月 17 日）

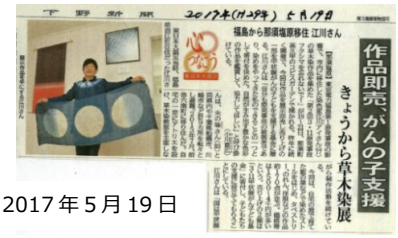
東京・四谷にある専福寺のご協力を受け、本堂を会場に、トランペット、パーカッション、キーボードのトリオで 3 人の音楽家（小原裕さん、小原由起子さん、梅津千恵子さん）が演奏を披露しました。お話は青木正美医師が担当し、参加者は甲状腺のお話にもうなずきながら聞き入っていました。本堂いっぱいの参加者で、多くのご寄付も寄せられました。

いまだからコンサート（2018 年 3 月 18 日）

富山県の避難者と保養受け入れ団体と浄土真宗富山教区災害復興支援ネットワークが協力してくださり、オカリナ奏者のホンヤミカコさん、牛山元美医師のお話でお送りしました。コンサート後、福島や県外からの避難者を囲んで健康問題などについて意見を交換しました。コンサートについても複数のメディアで報道され、開催した地域からの寄付が届いています。

募金を呼びかけていただき、ありがとうございます！

浪江町から避難し、その後栃木県那須塩原に移住された染色家の江川アイさんは、ご自身の草木染作品の売上げの一部と会場募金をご寄付くださいました。


下野新聞 2017年(H29年) 5月19日
福島から那須塩原移住 江川さん
作品即売、がんの子支援
きょうから草木染展

下野新聞 2017 年 5 月 19 日

俳優の中村敦夫さん（呼びかけ人）は、全国で展開されている、ご自作の朗読劇『線量計が鳴る』の公演による収益を寄付してくださっています。

公立・私立の学校からも、継続してご寄付が届いています。

東京ジュニアオーケストラソサエティは、今年度もチャリティコンサートを開催してくださり、会場に当基金を紹介するブースを設置して、寄付を呼び掛けて下さいました。

岐阜美濃観光開発様は、昨年に続きチャリティゴルフコンペでの寄付を寄せて下さいました。

市民による催事や広報で基金の活動を紹介してくださり、寄付や支援の呼びかけや、PR カードの設置など、さまざまなご協力をいただいておりますこと、お礼申し上げます。

ありがとうございます！

広報活動　【メディア露出】

基金の活動について広めるため、メディア対応を含め、広報活動に力を入れました。その結果、以下のように各報道機関に取り上げられることも多く、療養費給付の申請およびご寄付につながりました。

2017 年	
4 月	
1 日	「事故当時 4 歳児、がんと診断」（朝日新聞）、ほか福島民友ニュース、Japan Times
11 日	《記者会見》「第 1 期療養費給付のまとめ」「療養費の第 2 期募集開始」（共同通信）、ほか Our Planet-TV
14 日	「甲状腺がんの子『結婚など心配』支援団体アンケート」（朝日新聞）
23 日	「甲状腺がん報告されず」（東京新聞）
25 日	「消された甲状腺がんのデータ」（DAYS JAPAN5 月号）
26 日	「線量計が鳴る」中村敦夫さん（毎日新聞山梨版）
6 月	
6 日	「『経過観察』も継続把握へ」（朝日新聞）
26 日	「TEAM 防災ジャパン」に掲載（公益社団法人助けあいジャパン）
30 日	「小児甲状腺がん発症数を把握できないカラクリ」（週刊金曜日）
7 月	
1 日	第 2 期第 2 回療養費給付　リリース配信 『3・11 甲状腺がん子ども基金』から見えてきたもの」崎山代表（岩波『科学』特集「被曝影響と甲状腺がん」）
4 日	「検査対象縮小　甲状腺がん『経過観察』もともと除外」（東京新聞こちら特報部）
8 月	
1 日	第 2 期第 3 回療養費給付　リリース配信
4 日	「県民調査以外で甲状腺がん 8 人　子ども基金発表」（朝日新聞）
5 日	「『日本女医会』が 3・11 甲状腺がん子ども基金に寄付」（Yahoo ニュース）
12 日	郡山、週刊『ウィークリー』1 面全面、崎山代表理事のインタビュー掲載（12 万部）
9 月	
10 日	「原発事故後の甲状腺がん、民間基金が再発に追加支援」（ＮＨＫニュース）
19 日	電話相談告知報道：朝日新聞福島版、毎日新聞（1 都 15 県）、東京新聞(1 都 15 県)、共同通信（1 都 15 県配信を受け福島民報、福島民友）
20 日	「子ども甲状腺がん悩みや疑問相談を 24 日電話窓口開設」（新潟日報）
23 日	「『甲状腺がんの無料電話相談』あす東京の NPO」（毎日新聞）
24 日	「原発事故後の子どもの甲状腺がん電話相談に不安の声」ＮＨＫニュース
10 月	
2 日	第 2 期第 5 回療養費給付　リリース配信
4 日	「甲状腺がん患者への支援 100 人へ～7 人は再手術」（Our Planet-TV）

11 月	
19 日	金融ファクシミリ新聞　崎山代表インタビュー
26 日	「原発事故後に甲状腺がん手術　8 割が将来に不安」NHK ニュース NHKBS1 スペシャル『原発事故 7 年目　揺れる甲状腺検査：（前編）がんはなぜ多く見つかっているのか／（後編）“過剰診断”深まる混迷』で、崎山代表理事のコメント、当事者アンケートからの声が紹介される。
30 日	第 2 期第 7 回療養費給付「福島県外、関東からの申請について」リリース配信
12 月	
6 日	《記者会見》「甲状腺がんと診断された 52 人の声」～当事者アンケートによる証言～
7 日	「福島県の甲状腺検査、継続望む声 支援団体がアンケート」(共同通信配信、上毛新聞)
20 日	「原発事故後の甲状腺検査　充実を求める訴え」ＮＨＫ、ほか河北新報、OurPlanet-TV、Japan Times、ap 通信、IWJ などが報道
2018 年	
1 月	
15 日	季刊『社会運動』に掲載（一般社団法人市民セクター政策機構）
2 月	
14 日	「甲状腺がんのこと知って」支援の民間基金がお寺でコンサート（共同通信配信、産経ニュース、毎日新聞）
17 日	「甲状腺がん支援の輪を広げて　新宿の寺で演奏会、患者の手紙も」（共同通信配信、福島民報、福島民友、河北新報、京都新聞）
22 日	「甲状腺検査知って！　本堂コンサートで啓発・泉福寺」（週刊仏教タイムス）
3 月	
1 日	《記者会見》　福島県での再発例についての記者会見（東京、福島） 「原発事故甲状腺がんの子ども約 1 割の 8 人再発し再手術」（ＮＨＫニュース、ＮＨＫ国際報道）、ほか共同通信配信、福島民報、福島民友、佐賀新聞、山梨日日新聞、愛媛新聞、大分合同新聞、Yahoo ニュース、東京新聞、毎日新聞 Web
3 月 2 日	3 日の電話相談告知報道（NHK、福島民報、福島民友、朝日福島、朝日首都圏）
3 月 3 日	「甲状腺がんの 8 人が再手術　ＮＰＯ発表」(朝日新聞福島)
3 月 6 日～11 日	原発事故から 7 年目の 3 月 11 日を特集する国内外メディアからの取材。 代表理事インタビューを TBS『サンデーモーニング』、ドイツ公共放送 ZDR が報道。 コラム卓上四季「見えない苦しみ」（北海道新聞）
19 日	「甲状腺がんの被害知って～子ども基金、富山でコンサート」（北日本新聞、北陸中日新聞）

2017年度会計報告

貸借対照表

（2018年3月31日現在）

（単位：円）

資　産　の　部		負　債　の　部	
現預金	7,804,027	未払金	879,248
貯蔵品	33,948	預り金	48,301
前払費用	21,490	正　味　財　産　の　部	
療養給付事業特定資産	24,044,160	正味財産額	30,976,076
資　産　合　計	31,903,625	負債及び正味財産合計	31,903,625

収支の内訳

（自 2017年4月1日　至 2018年3月31日）

（単位：円）

収　　入		支　　出	
受取寄付金	28,977,768	事業支出	17,585,208
受取会費・入会金	1,458,000	（うち療養費給付）	(7,000,000)
その他収益	60,215	管理費	2,911,052
収入の合計	30,495,983	支出の合計	20,496,260
		収支差額	9,999,723

＊事業支出とは、基金のすべての事業にかかる経費です。なお、詳細な決算報告はウェブサイトにて公開しています。

ご寄付のオンライン決済が可能になりました。

※ご寄付や会費の**オンライン決済（クレジットカード）**が可能になりました。
Web サイトのご寄付のページまたは右の QR コードからアクセスできます。
どうぞよろしくお願いします。

2018 年度もご支援、よろしくお願いします

第３期療養費給付事業：対象年齢の範囲を広げました

療養費給付事業「手のひらサポート」第 3 期の申請受付を開始しました。今期から申請時 25 歳以下の枠ではなく、原発事故時 18 歳以下で事故後に甲状腺がんを発症した人を支援対象とし、今年度は 26 歳に達する人まで拡大しました。

対 象 者：1992 年 4 月 2 日以降に生まれ、2011 年の東京電力福島第一原子力発電所事故時下記の 1 都１５県に居住し、甲状腺がんの手術を受けた方、または穿刺細胞診で甲状腺がんと診断された方

対象地域：岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県、長野県、山梨県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県

給 付 額：給付対象にあたる人で、審査で決定した方　10 万円
再発・転移などにより再手術を受けた方　10 万円を追加して給付
ＲＩ（アイソトープ）治療適用の方　10 万円を追加して給付
＊なお、対象範囲外であっても、特段の事情のある方については、ご相談のうえ、審査委員会において個別に判断します。

AYA 世代への支援を（AYA＝Adolescent and Young Adult　思春期・若年成人）

10 代後半～20 代の思春期・若年成人世代は AYA 世代と呼ばれています。小児と成人の狭間の多感な時期で、大学進学や就職の年齢に入ると故郷を離れる人も多くなります。この時期に病気に罹患すると、さまざまな精神的ストレス、将来への不安なども抱え込むことになります。事故時子どもだった方々も、徐々にこの世代の方が増えています。小児期とはまた異なる支援体制の必要な世代。その世代への支援にも力を入れていきます。昨年のアンケートでは、受給者の皆さんの将来の希望もうかがいました。一部を紹介します。

- 教師として子どもたちに東日本大震災を伝えたい
- 大学で天文学を学びたい
- 心理カウンセラーになり、自分と同じ経験をした人を助けたい
- 保育士をがんばっています
- スタイリストが目標
- 医療ロボットの開発をしたい

子どもたちの夢や希望を、みなさまと共に応援していきたいと思います。

2018 年度も
4 つの柱で
活動していきます！

相談
フォローアップ
受給者向けの
情報発信
電話相談
etc.

療養費給付
手のひらサポート

広報
普及啓発
普及キャンペーン
地域密着
情報発信
etc.

調査研究
当事者の声を聴く
専門家への
ヒアリング
etc.

ひとりでも多くの方に
手のひらサポートを届けたい！

編集後記

6 月の大阪北部地震、7 月の西日本豪雨の被害に遭われたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。今年は異常な気象が続いております。どうぞみなさま、くれぐれもお大事にお過ごし下さい。

第 3 期が始まりました。みなさまからのご支援に励まされながら、手のひらサポートの普及に努めています。2018 年度も、どうぞみなさまのお力をお貸しください。　（編集：吉田由布子）

特定非営利活動法人 3・11 甲状腺がん子ども基金

役　員　代表理事　崎山比早子（元国会事故調委員）
副代表理事　海渡雄一（弁護士）
武藤類子（福島県三春町在住）
理　事　河合弘之（弁護士）
満田夏花（国際 NGO・FoE ジャパン事務局長）
吉田由布子（「チェルノブイリ」女性ネットワーク事務局長）
渡邉弘美（医師、日本女医会東京都支部連合会会長）
監　事　坂本有希（環境団体役員）
福田健治（弁護士）

事務局　脇ゆうりか（事務局長）、松本佐知子、吉田由布子（非常勤）
連絡先　東京都新宿区四谷本塩町 4 番 15 号 新井ビル 3 F
☎ 03-5369-6630　✉ info@311kikin.org　URL:www.311kikin.org